

【専門教育科目/看護の展開/老年看護学】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
老年看護援助論Ⅰ		必修	2	2	後期
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー		
佐野 宏一朗 他	414	k.sano	金曜 14:40~16:10		
授業の目的・概要	この講義では老年看護学概論で学習したことを踏まえ、加齢に伴う心身の変化や様々な健康問題をもつ高齢者の看護の方法を理解し習得する。また人生の最終段階にある高齢者の看護とその家族への援助について学ぶ。高齢者とその家族の抱える問題や課題を発見し、高齢者を支える医療福祉制度について考察する。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク				
学習上の助言	老年看護学概論と連動した講義であるため老年看護学概論の復習をしてから受講すること。授業中の質問については、Formsのフィードバックペーパーを積極的に活用すること。				
教科書	ナーシンググラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害(第6版)/編:堀内ふき他/メディカ出版/2021 ナーシンググラフィカ老年看護学①高齢者看護の実践(第5版)/編:堀内ふき他/メディカ出版/2021 [2冊指定]				
参考書	老年看護 病態・疾患論(第5版)/著:羽柴研二/医学書院/2018				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	高齢者の生理的特徴を踏まえ、健康状態が生活にどのように影響するか説明できる	NS(1)~(5)			
②	高齢者の個性を重視した看護について理解することができる	NS(1)~(5)			
③	人生の最終段階にある高齢者に必要な看護について考える事が出来る	NS(1)~(5)			
④	老年症候群や認知症など高齢者に特有な疾患とその看護について考える事ができる	NS(1)~(5)			
⑤	高齢者ケアの場で派生している倫理問題を理解し、看護の役割を考察できる。	NS(1)~(5)			
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	高齢者アセスメントの指標とICFモデル	講義	ICFの概要をまとめる	4	
2	高齢者の活動と休息を支援する看護	講義	加齢による運動機能や睡眠の変化への看護についてまとめる。	4	
3	高齢者の摂食嚥下機能の変化	講義	摂食嚥下の5期モデルについてまとめる。	4	
4	摂食嚥下障害をもつ高齢者の看護	講義	摂食嚥下障害の看護についてまとめる。	4	
5	排泄機能に問題を持つ高齢者の看護(1)	講義	褥瘡や高齢者の皮膚疾患についてまとめる。	4	
6	排泄機能に問題を持つ高齢者の看護(2)	講義	排泄の問題をもつ高齢者の看護についてまとめる。	4	
7	高齢者に特有な疾患と看護(1)	講義	認知症と老年症候群について要点をまとめる。	4	
8	高齢者に特有な疾患と看護(2)	講義	高齢者に特有な疾患と看護についてまとめる。	4	
9	急性期にある高齢者の看護	講義	急性期の高齢者看護の要点についてまとめる。	4	
10	高齢者のリハビリテーション看護	講義	高齢者のリハビリテーションに関わる職種についてまとめる	4	
11	認知症の看護(1)	講義・GW	認知症の高齢者との関り方について考える。	4	
12	認知症の看護(2)	講義・GW		4	
13	看護技術演習:摂食嚥下障害の看護	演習	摂食嚥下障害の看護について要点をまとめる。	4	

【専門教育科目/看護の展開/老年看護学】

14	看護技術演習:高齢者の排泄ケア	演習	オムツ交換と清潔ケアの方法について要点をまとめる。	4			
15	終末期にある高齢者の看護	講義	エンドオブライフケアについてまとめる。	4			
試	定期試験						
達成度評価							
総合評価割合(%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		80	20	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	60	10	0	0	0	70
	思考・推論・創造する力	20	5	0	0	0	25
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	5	0	0	0	5
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
問題を発見・解決する力		00	0	0	0	0	0
評価のポイント					フィードバックの方法		
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点					
試験	①	✓	定期試験の範囲は講義全体を対象として出題し80点満点とする。講義中に示した要点を中心に試験する。		試験問題の要点について後日説明する。		
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
レポート	②	✓	レポート内容の適切性、課題に沿っているか、知識・技術力を10%、思考・推論・創造する力5%、フォーム、文章構成力、適切な文章表現、提出期限までに提出しているかを5%の配分で評価する。		最終講義の際にフィードバックをする。		
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
備 考							
他担当教員	山崎さやか、森田 祐代(非常勤講師)						
教員の実務経験	佐野は病院の看護師15年の実務経験、山崎は病院の看護師9年の実務経験。						
実践的授業の内容	高齢者への日常生活援助技術を学び、さらに実際の看護で生かすことが出来る技術を習得できるよう学内で演習を実施する。						
その他	今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスを変更する可能性がある。大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は対面授業の参加を認めない。本科目の単位取得は、老年看護援助論Ⅱの履修前提条件となる。毎回の講義内容を、配布資料をもとに復習しておくこと。講義中、看護技術演習中の携帯電話、スマートフォンの使用は許可した場合を除き禁止する。						